

天保山から新夕陽ヶ丘へ

(第 89 回くらわん会 2003/11/04)

天保時代に出来た日本で一番低い山天保山(海拔 4.530mm) から、大阪オリンピックを逃した舞洲にある新夕陽ヶ丘(海拔 25 m) を結ぶコースを、小春日和の絶好のお天気の中、爽やかな汐風に吹かれながら歩いた快適な一日だった。

集合場所は地下鉄大阪港駅から徒歩で 5 分も歩いた天保山棧橋待合室の前の公園に 121 名の会員が集まった。公園の北隅にある天保山三角点にまずは登山、天保山山岳会から登山証明書を頂いた。この山は、江戸時代末期の天保年間(1830 ~ 1844)、港づくりに伴う安治川河口の川ざらえ事業によって生じた土砂を積み上げてできた人工の砂山(当時は高さ約 20 メートル、周囲約 200 メートル)。当時の山肌には、松やサクラの木が植えられ、江戸期の大坂町人の憩いの場でもあったとされる。明治 44 年に三角点が設置されたが、その後の山土の削り取りや地盤沈下により、日本で一番小さな山に。現在は近くに「海遊館」「天保山ハーバービレッジ」が設置され、周辺の観光地化が進んでいる。

すぐ隣に聳えるような阪神高速道路湾岸線の天保山大橋があり、その下を対岸の桜島まで大阪市の無料の渡し舟が出ている。明治 38 年に開設されたこの渡しは、大阪市が港湾振興策として始めたもので、昭和 12 年 12 月には渡船が突風にあおられ転覆、53 名もの被害者を出す事故もあった。最盛期には 1700 人 / 1 日の利用者があったが、現在では 870 人 / 1 日程度の利用者で、あさ 6:15 ~ 19:50 まで運行、昼間は 30 分おきに発着している。

折り返し二便の渡し舟を出してもらって、対岸の桜島に渡る。船上から天保山側を振り返ると大観覧車とマーケットプレスに続いて海遊館、その向こうに南港の ATC、WTC などの施設が逆光の中に浮かび上がる。桜島側には USJ 横の大ホテル群が立ち並び朝日を受けてきらめいている。

此花区の殺風景な倉庫群の中に、突然誕生したハリウッド「USJ」の西側を此花大橋まで進むと全長 540 m の橋東詰をらせん状に登ってゆく歩道があった。ビル 10 階建てぐらいの高さを登る、こ

地下鉄大阪港駅から徒歩で 5 分の天保山棧橋待合室前の公園に集合



天保山三角点に向けて出発、先頭リーダーは高濱さんと長川さん



三角点の前に立ちあがる山より高い戦没者記念碑



日本一低い山、天保山二等三角点(4.530m)





海抜4,530mmの天保山に登山、こっが山頂

の坂道は結構きつく久しぶりに参加した会員一人の脱落者が出た。

螺旋スロープの途中から橋の左に見える巨大できらびやかな建物は、大阪市環境事業局の舞洲清掃工場で、オーストリアの芸術家、故フリーデンスライヒ・フンデルヴァッサ氏のデザインによるもので、世界で二つしかない作品となった。モスクのような塔は排気筒で、ダイオキシン対策された最新鋭の処理施設は一般ゴミを一日900トン、粗大ゴミを170トン捌く大阪のご自慢のもの、橋をはさんで反対側に二つ目の工場が建設中だった。



明治38年開設の天保山渡しに、二便に分かれて乗り込む、定員は80名



大阪市の突風で転覆した月には突風で転覆した53名の被害者を出した



大橋の下を阪神高速道路湾岸線天保山

かつてのごみ埋立地、舞洲は、大阪オリンピックの誘致には失敗したが巨大なアリーナや、野球場、緑地などが集まったりゾートゾーン「舞洲スポーツアイランド」になっている。中央の通を左に折れて、紅葉を始めたけやき並木の中をシーサイドプロムナードに向かう。途中に舞洲アリーナ、舞洲ベースボールスタジアム、シーサイド・テニス・ガーデンと続き、夢洲を目の前にした海沿いにプロムナードが続く。本日の昼食は爽やかな汐風とさんさんと注ぐ日光の中で最高の気分ですることになった。

昼食後、天保山山岳会から本日付の登山証明書を全員に貰った。何ととっても国土地理院認定の海抜4,530mmの山なんですから。緑地の中の松林や桜の並木の中を散策しながら、舞洲の西の突端にある新夕陽ヶ丘(25m)の麓へ、大阪市バスの舞洲スポーツアイランドのバス停があり、すぐ横に舞洲陶芸館がある。バスの待ち合わせ時間に、中に入ると若者が粘土と向き合っていた。

新夕陽ヶ丘は高さは低い前を遮るものが無いため見晴らしは最高、特に尼崎沖から神戸、六甲連山、霞んで良くは見えなかったが、明石大橋から淡路島まで一望できる。山上にはヨーロッパ風の洒落た小屋があり。くつろぎながらゆったりと夕日を見るには最高のスポットだろう。あいにく、ここで解散のわれわれには、秋深い夕日も、まだ天空高くにあった。気持ちよく爽やかな秋風に誘われながら歩いた一日となった。とりを知ることが出来た。これを大切にせねばなるまい。

富田朝己記



天保山大観覧車の向こうにマーケッ
トブレイスに続いて海遊館等が見え
る
桜島側にはUSSJ横の大ホテル群が立
ち並び朝日を受けてきらめいている



此花区の殺風景な倉庫群の中に、突然
誕生したハリウッド「USSJ」の西側
を此花大橋まで進む

橋東詰をらせん状に登ってゆく歩道
があり、ビル10階建てぐらいの高さ
を登る



舞洲清掃工場は、オーストリアの芸術
家、故フリーデンスライヒ・フンデル
ヴァッサ氏のデザインによるもので、
世界で二つしかない作品となった

全長五四〇米の此花大橋は昭和62年3月竣工、中
央1本のみのモノケーブルタイプ
の自碇式吊橋



此花大橋から北西を見ると、常吉大
橋の左に新しい市営のごみ処理場が
建設中、尼崎沖から六甲連山の展望
がすばらしい





中央の道を左に折れて、紅葉を始めた
けやき並木の中をシーサイドプロム
ナードに向かう

舞洲緑地のシーサイドプロムナードは
何故か魚つり禁止



天保山山岳会から各人に海拔300m
の登山証明書を頂いた

夢洲を目の前にした海沿いにプロム
ナードが続く、本日の昼食は爽やかな
汐風とさんと注ぐ日光の中で最高



山上にはヨーロッパ風の洒落た小屋
があり、くつろぎながらゆったりと
夕日を見るには最高のスポット

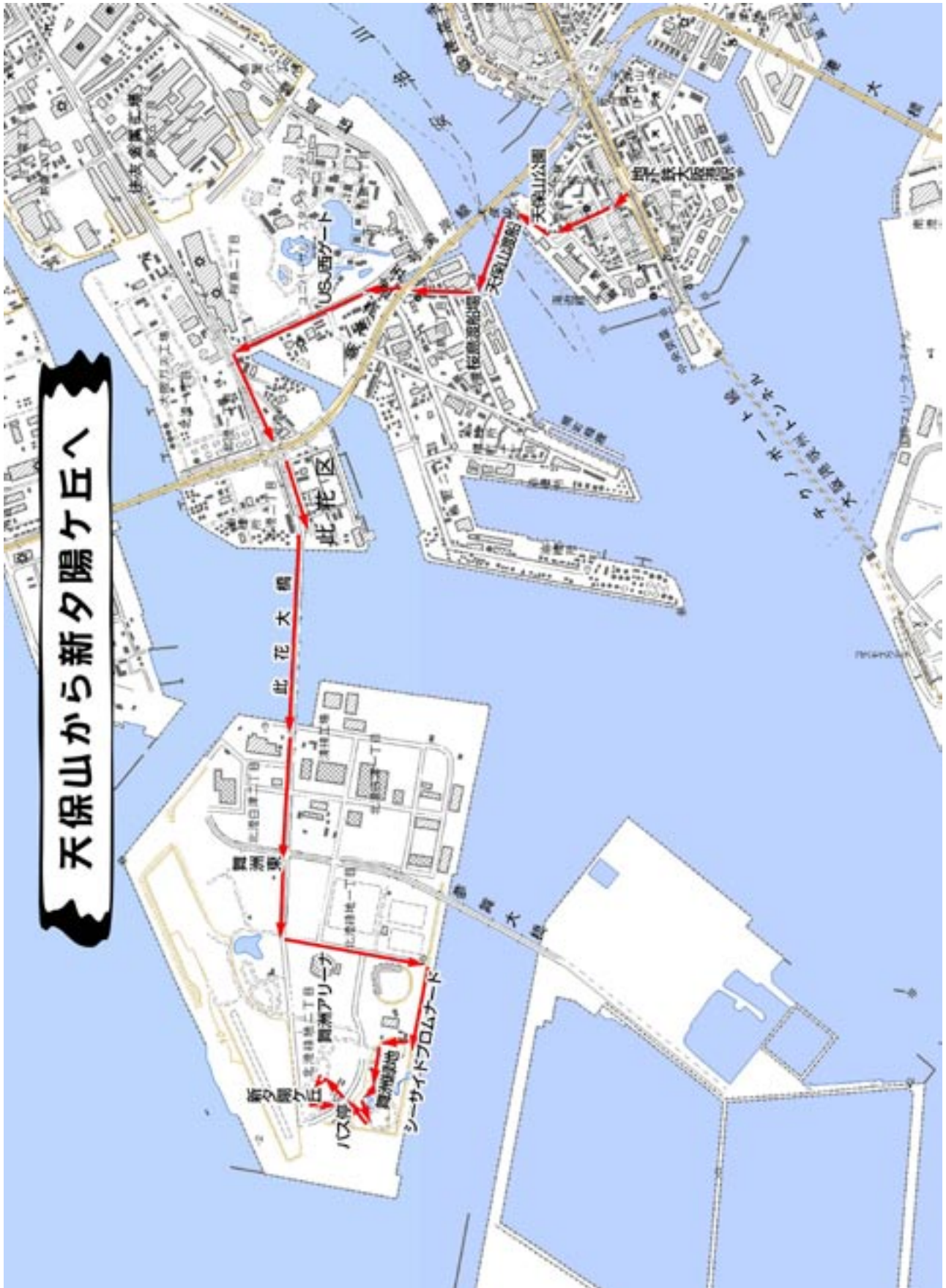
新夕陽ヶ丘は前を遮るものが無く見晴
らしは最高、尼崎沖・神戸・六甲連山、
霞んでいたが明石大橋・淡路島を一望



バス停のすぐ横に舞洲陶芸館がある、
バスの待ち合わせ時間に中に入ると若
者が粘土と向き合っていた

舞洲スポーツアイランドバス停で本日
の例会は解散、JR西九条まで出る





<行程>

地下鉄大阪港駅⇒天保山公園⇒渡船⇒桜島渡船場⇒USJ 西⇒此花大橋⇒舞洲東⇒舞洲アリーナ⇒シーサイドプロムナード（昼食）⇒舞洲緑地⇒新夕陽ヶ丘（バス停で現地解散）

約6km 2003年11月04日（火）第89回例会 121名参加